

5, 本 時 案 - 第二次分 -

- (1) 主眼 絵を見て想像したことを、絵の中のベンチの視点に立ち、接続詞や擬音語・擬態語、会話文等の技法を用いて、リレー作文を書くことができる。
- (2) 準備 作文ヒント集(カード化して、封筒にひとまとめにしたもの)、公園の絵
- (3) 展開

前の学習	物語を書くために、公園の絵を見て想像したことを発表し合った		
	学習活動・内容	教師の支援・配慮事項	評 価 の 観 点
	<p>1 公園の絵を見て想像したことを発表し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間、季節 ・ベンチが考えたこと ・公園に来た人々のこと ・公園に来た人々の性格 ・ベンチの思い など 	<p>自分が書こうと思った場面の絵について自由に発言することで、前時の学習を想起できるようにする。</p> <p>想像したことを、目に見えるもの、聞こえるもの、気持ち等に分類するよう促し、表現への足がかりとなるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵から、豊富な情報を生み出しているか (情報の量、種類に注目)
	<p>2 グループで、リレー作文を書いてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の設定、展開 ・ベンチの視点からの書きぶり (擬人化) ・見えるもの、聞こえるもの、気持ち 	<p>物語を書くための練習ラウンドとして、リレー作文を書いてみることをこどもたちに提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物語をつなごうとして書いているか(前の友達の内容にどの程度刺激されているかに注目)
	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文を使う ・擬態語、擬音語を使う ・接続詞に続けて書く 	<p>リレー物語 書き方のルール</p> <p>書き出しは教師が設定(ベンチの視点での書き出し)</p> <p>一人制限時間2分で、1~2文を書く</p> <p>時間が来たら、次の人にまわす</p> <p>改行は自分の好きなときに行ってよい</p> <p>文章に詰まったときは、ヒントカードを使う</p> <p>会話文や擬態語、擬音語などの特徴的な表現技法に着目してほめるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現を工夫しようとしているか(表現技法の種類に注目する)
	<p>4 リレー作文を紹介し合い、感想を述べ合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書いてみて思ったこと ・他のグループの物語を聞いて思ったこと 	<p>書き手としての感想(難しさ、おもしろさ)、聞き手・読み手としての感想(よさ、おもしろさ、つまらなさ)の両方を取り上げ、書くことに対する思いを各自が整理できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き手として、読み手としての思いがもてたか(ノートへの記述に注目)
後の学習	リレー作文に続けて書き足したり、新しく創ったりして、物語を書く		